

病名：微孢子虫症
 病原体：微孢子虫一般
 宿主：魚介類

区分	手法名 (文献)	プライマー		反応温度条件	増幅産物bp	備考	推奨度
		名称	配列 (5'-3')				
PCR	Miwa et al., (2011)	MicSr5	5'-CAC CAG GTT GAT TCT GCC TGA CGT-3'	98 °C、10秒→ 60 °C、30秒→ 72 °C、30秒の 30サイクル	約 1,300bp	増幅産物をシーケンスして同定する。 論文では耐熱DNA合成酵素にPhusion (Finnzyme 社) を用いている。Taqとの違いは、古細菌由来の酵素であること、耐熱性がより高いため熱変性温度を98°Cまで高めることができることと、合成速度が速いこと、比較的にTaqよりも阻害物質に強いこと等である。増幅産物の3'末端にdA (デオキシリボ アデノシン) が付着しないので、TAクローニングの際には、dAを付加する。 Taqを用いる場合は、下記のような条件を参考とする。 94 °C、2分間 94 °C、30秒 → 60 °C、30秒 → 72 °C、1分の30サイクル 72°C、10分	-
		MicSr3r	5'-TTA TGA TCC TGC TAA TGG TTC TCC C-3'				

文献

1) Miwa et al. (2011). Encephalomyelitis associated with microsporidian infection in farmed greater amberjack, *Seriola dumerili* (Risso) . Journal of Fish Diseases, 34, 901-910.